

# 「田んぼ」を総合学習の場とした農業体験学習

当麻土地改良区

## 1 取組の目的

水土里ネットとうまでは、地域の農業を単なる生産基盤としてではなく、農業農村の持つ多面的機能について子どもたちを通じて広く地域の人々に理解してもらうことを目的に、「田んぼ」を総合学習の場（田んぼの教室）とした農業体験学習を展開している。農地や農業用水は、食料の安定供給になくてはならない生産の源であるとともに、国土の保全や美しい農村景観など多面的機能を持つ大切な資源であるということを学習し、ふるさとの環境を育んでいるこれらの資源を大切に守り育てながら、新たな時代にふさわしい豊かで住みよい農村づくりのために、地域に住んでいる人たちみんなに理解してもらい、協力を得られるよう活動を行っている。

## 2 取組の内容

### (1) 田んぼの教室

#### ア 稲の生育観察及び用水路清掃活動（5月）

児童が田んぼの教室で田植えをする苗をハウスの中で観察し、お米クイズを交えながら学習した。

また、田んぼまで用水がどのように流れてくるのかを学習するため、頭首工を見学し、バスで移動した後、田植えをするほ場まで用水路の清掃活動（ゴミ拾い）を実施した。



#### イ 田植え体験（6月）

5年生 56名が保護者や行政等関係機関、農家の協力を得て、8.2aのほ場に「ななつぼし」の苗を定植した。突然の雷雨により田んぼ全体を自分たちの手で植えることはできなかったが、「食のありがたみと自然に向き合う難しさ」を直接肌で感じて学ぶことができた。

また、農家の昔話を聞いたり、昔の道具を使用することにより、当麻町の農業や農村の歴史について学習した。



#### ウ 稲の生育と生き物観察（7月）

児童が植えた稲は草丈約 60cm に成長し、草丈を測ったり、茎の本数を数えたり、スケッチしたり各々自分たちで課題を考え生育観察を行った。

また、田んぼとその周辺にいる生き物観察により、生態系の移り変わりを知るとともに、そこで作られる米の安全性（生き物が生息できる環境）についても学習した。暗渠排水の模型を使用して、水田の地下の仕組みについても併せて学習した。



#### エ 稲刈り体験（9月）

5年生 56名を4班に分け、稲刈り、束ね、運び、はさ掛け作業をローテーションで行い、保護者や行政等関係機関、農家の協力を得ながら実施した。



#### オ お米の贈呈式（10月）

水田を借用している農家から精米されたお米 15kg の提供を受け、当麻土地改良区理事長から児童代表に対しお米の贈呈式が行われた。受け取ったお米は家庭科の料理実習で試食した。



#### カ 出前授業（1月）

今年度開催した田んぼの教室での総まとめを実施

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

- ・「田んぼ」を総合学習の場とした農業体験学習を行ったことにより、農家の方々の苦労や努力、工夫、食の安心安全について理解が深まり、当麻町や北海道で採れた野菜やお米を食べよう（地産地消）という気持ちが育まれた。
- ・出前授業など一連の活動を通じて、農地やダム、ため池、用水路などの土地改良施設は作物を生産するだけでなく洪水防止、防火用水、生態系保全、景観形成など多くの役割（多面的機能）を持っていることを学習することができた。
- ・用水路の清掃活動（ゴミ拾い）を通じて農村景観の美しさを再確認し、自分たちの手で美しい農村の景観を守る気持ちが育まれた。

#### (2) 課題

- ・「田んぼ」を総合学習の場とした農業体験学習は、当麻小学校5年生を対象に平成15年度から継続して実施しているが、今後は町内全ての児童・生徒が体験できるよう行政等関係団体と協議する必要がある。